

なんじゃいぞうこうじいせき
南蛇井増光寺遺跡



この地域は、縄文時代から平安時代にかけての縦穴住居785軒、掘立柱建物跡44軒などが発見され、土器や石器等の遺物も大量に出土しました。

この中でも、弥生時代後期では約130軒の住居跡が発見され、当時の鏡川流域で最大級のムラがあったと考えられます。

そこで、この壁画は、この遺跡をイメージし、鈴木健夫氏の協力を得て、富岡商工会議所の青年部が描いたものです。